

# 京都府乙訓教育局 人権啓発ビデオライブラリー

(平成25年2月現在)

	題名	上映時間	視点	内容 (ビデオ解説より抜粋)	製作年	
1	私の中の差別意識 部落差別問題から考える	24分	同和問題 (個別的視点)	部落差別問題に関して、人権問題の専門家や結婚差別に直面した女性、隣保会館の館長などへのインタビューをとおして、心の中にある差別意識について考える。常に自分の中にある差別意識を問い直し、正しい知識や判断力を持つためには、学ぶことが大切であり、そのことが、差別解消につながることを伝えている。	2010年 (平成22年)	DVD
2	人権のヒント 地域編 「思い込み」から「思いやり」へ	25分	さまざまな人権問題 (普遍的視点) (個人的視点)	街の喫茶店「カフェ・ヒューマンライツ」に様々な思いを抱いた人々が集まってくる。その交流の中から「人権のヒント」を考え、それぞれの違いを思いやる心の大切さを理解していく内容。 ・結婚したら女は家庭に入るのが常識？障がいのある人は何が何でも介護されるべき存在なのでしょうか？自分を通すために強く主張して相手を傷つけたり、言い出せなくて自分が傷ついてしまったりしたことはありませんか？同和問題や外国人差別など、根拠のない思い込みと決めつけはありませんか？	2010年 (平成22年)	DVD
3	夢のつづき	40分	高齢者 (個別的視点)	家族の中では疎外感を抱く高齢者、認知症を患う高齢者、その介護に疲れ果てた高齢者や無気力な毎日を送る若者らが、世代の異なるものとのふれあいや、高齢者を支援するサービスの活用などで、家族のきずなを深め、生き甲斐を感じられる生活をおくることができるようになっていく様子が描かれている。	2008年 (平成20年)	DVD (アニメーション)
4	ひとみ輝くとき	35分	いじめ (個人的視点)	ひっきりなしに送られてくる、誹謗中傷や現金を要求するメールに悩む拓也。次第に追い詰められ不登校に陥り、死を意識して郊外の展望台に立ったところを老夫婦に声をかけられ事なきをえる。いじめの責任は加害者だけにあるのか？ 学校・家庭・地域が一体となってこの問題に取り組み、クラス全員で話し合い、ほとんどの生徒達が仲裁者ではなく、傍観者や観衆であることに気づいていく。	2008年 (平成20年)	DVD

5	「同和問題と人権ーあなたはどう考えますかー」	28分	同和問題 (個別的視点)	同和問題をテーマに、ある家族の話し合いを通じて、国や地方公共団体等による施策やいまだに残る差別事象、偏見などをわかりやすく紹介した作品。	2008年 (平成20年)	DVD
6	「見てから考えよう」	16分	さまざまな人権問題(普遍的視点) (個人的視点)	人権についての核心を、子どもたちの身近な生活の場面を通じて学ぶことができるようにした内容です。3部構成となっており、DVDと各ストーリーとそれぞれのポイント、授業の展開方法などが記されている授業の手引きが付いており、参加体験学習にも活用できます。	2008年 (平成20年)	DVD
7	夕映えのみち	38分	さまざまな人権問題*インターネット (個人的視点)	もし、我が子がインターネットを使って他人の人権を侵してしまったら、逆に我が子がその被害者になり「いじめ」にあつたら、あるいは、学校や地域で同じ事件が起きたら、あなたならどうしますか?など、学習の参加者に問いかける内容。	2006年 (平成18年)	DVD (アニメーション)
8	未来への虹 ーぼくのおじさんは、ハンセン病ー	30分	患者等 (個別的視点)	茨城県からおじさんのところに遊ぶに来ていた小学校6年生の正太は、いとこの香奈と「国立療養所多摩全生園(こくりつたまぜんしょうえん)」に住む平沢保治さんの家へおつかいを頼まれた。初めて訪れる「全生園」がどのようなところかわからず、平沢さんの容姿に驚き、戸惑いを覚える正太。そんな正太に、平沢さんは語りかける・・・「ハンセン病」という病気にかかり、14歳の時に茨城県から全生園に入所したこと。外見が他の人と違うために差別を受けてきたことを・・・	2005年 (平成17年)	ビデオテープ(アニメーション)

9	私たちの人権宣言 転校生はおばあちゃん？	50分	命の大切さ (普遍的視点)	<p>中学2年生の川島みちるたちのクラスに、坂野ウメという74歳のおばあさんが転校してくる。大きく年の離れた転校生と、なかなか打ち解けられないみちるたち。そんなある日、学校を休んだウメさんのお見舞いに行ったみちるたちは、ウメさんの戦争時代の辛い体験と、「勉強したい」という夢が叶えられずに亡くなった幼なじみの話を聞く。翌日、その話を聞いた担任のガッツ先生は「世界人権宣言」と「児童の権利に関する条約」についてみんなに教える。「どうしたら人権侵害はなくなるんだろう」と考えたみちるは、あることを思いつく。</p>	2004年 (平成16年)	ビデオテープ
10	「ハードル」	84分	いじめ (普遍的視点)	<p>いじめを乗り越え、たくましく成長する子どもたちを描いた感動の物語。 文部科学省選定作品</p>	2004年 (平成16年)	DVD
11	プレゼント	17分	いじめ (個人的視点)	<p>小学4年生の綾香は、同級生の美由紀の誕生日に手作りの写真立てをプレゼントする。それは、美由紀のことを思って作ったプレゼントであったが、美由紀の気に入るものではなかった。腹をたてた美由紀は、それから綾香にいじわるを始める。美由紀がいじわるをするようになってから、それまで仲のよかった茜や恵まで綾香を避けるようになり、やがてクラス中が綾香を仲間はずれにするようになった。ただひとり、クラスで孤立している麻里だけが綾香をかばったが、ある出来事をきっかけに、綾香は学校を休んでしまった。</p>	2003年 (平成15年)	ビデオテープ (アニメーション)
12	風かよう道	35分	同和問題 (個別的視点)	<p>古い因習にとらわれている主婦とその家族を通して、六曜、占い、穢れなどが差別意識を形成する土壌となっていることを提起する。また、今日的な問題であるコンピューターを悪用した差別事件も絡めて展開する。</p>	2001年 (平成13年)	ビデオテープ

13	こんど逢うとき	55分	同和問題 (個別的視点)	祖父母の故郷を訪ねて感動する日系三世の孫娘。しかし、今なお日本に差別が残っていることに大きなショックを受ける。	1996年 (平成8年)	ビデオテープ
14	へんてこなボランティア	46分	同和問題 (個別的視点)	読み書きができなかったために辛い思いをしてきた老婆の生活に生き甲斐が生まれた。三人の中学生から文字を教わったおかげで念願の孫との手紙のやりとりもできるようになったからだ。彼ら三人はこのふれあいの過程でボランティアの本質を学んでいく。	1990年 (平成2年)	ビデオテープ(アニメーション)
15	きずな一人間の詩パート2ー	30分	同和問題 (個別的視点)	江戸時代に確立された身分制度による部落差別は、まもなく21世紀を迎えようという現代もなお、社会的事実として残っています。この作品は、部落差別の典型的な例である結婚差別をとりあげ、部落差別がいかに不当なものであるか、また、どうしたらこの問題を解決することができるかを考えようとするものです。	1990年 (平成2年)	ビデオテープ(アニメーション)